

INFORMATION

時間が無い社会人の方にオススメ！ 中小企業診断士30!!

教材フル装備!

情報量そのまま!

60分講義を実現!!

仕事が忙しくて学習時間の確保が難しかった方にオススメのコースです!

従来の講義内容をそのまま1講義60分に凝縮している
ので社会人の方が無理なく1次試験合格を目指せます。
科目別に受講もでき、中小企業経営・政策なら2時間で基礎講義をマスター!

各科目の基礎講義時間

経済学・経済政策	財務・会計	企業経営理論	運営管理
4時間	9時間	5時間	4時間
経営法務	経営情報システム	中小企業経営・政策	トータル講義時間
3時間	3時間	2時間	30時間

アウトプットを中心に学習！ 1次科目別経験者合格コース!!

必要な科目だけ選択して受講できる学習経験者専用の1次試験対策コースになります。
短時間で効率的な学習ができる中小企業診断士30のWebフォローを特別価格で受講できる特典付き!

今から間に合う2次合格法セミナー 8/4(日)～配信開始!

1次試験後からスタートしても間に合う2次試験の合格法をご紹介します!
これから2次試験対策をお考えの方は必見のセミナーです!!

最新情報や講師メッセージを
ツイッターでお届けします!

フォロー
お願いします



⑤ 経営情報システム

【総評】

令和元年度の本試験は、近年の設問数と同じで25問であり、25問中1問以外は、4肢択一の問題であった。昨年度に引き続き、基本的な問題や、正解を絞り込むことができる問題も多かった。今年度は、昨年並みもしくは昨年よりやや難度が下がったと思われる。また、ここ数年、「aとb」のような組み合わせ問題の出題はなかったが、今年度は5問出題されたのが特徴である。さらに、前半（第1問～第13問）が情報通信技術に関する基礎的知識、後半（第14問～第25問）が経営情報管理の出題で、全体として標準レベルであったと思われる。そのため、合格ラインの60点を確保することができた受験生は多かったと思われる。

特徴を列挙すると、①時事問題・最新の内容の出題がある、②確実な知識で正解をしぼることのできる問題が今年度も出題されている、③検定などの統計問題が例年2問のところ1問であった、といったところであろう。正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

（情報通信技術に関する基礎的知識）

頻出している「ハードウェア」、「ソフトウェア」は今回も確実な正解が求められる。第2問（記憶媒体）、第3問（言語や仕組み）、第6問（情報処理）、第7問（システム構成）、第11問（インターネット）、第12問（ネットワーク機器）、第13問（信頼性）は正解したい問題である。

（経営情報管理）

頻出している「情報システム開発」は例年通りの出題された。第15問（ERP）、第16問（データ支援）、第18問（テスト）、第21問（BSC）、第22問（サービス）、第23問（クラウドコンピューティング）は正解したい。また、第25問（標準化を進める組織）は、2つに絞れるが対応が難しかったと思われる。

【的中問題！】 一部ご紹介致します！

大原：直前対策模擬試験－第11問

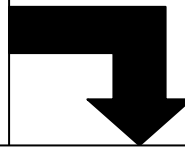
第11問

信頼性の高いコンピュータシステムの構成に関する以下の①～④の記述と、その記述を表す用語の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。解答は問11にマークせよ。

- ① 同じ処理を行うコンピュータシステムを二重に用意する形態。一定時間ごとに処理結果を照合して処理の正しさの確認を行い、どちらかのコンピュータシステムに障害が発生しても、一方のシステムで処理を続行でき高い信頼性が得られる。
- ② コンピュータシステムの負荷を分散させる目的で複数のCPUやコンピュータを接続し、各CPUやコンピュータで分担して処理を行うコンピュータシステムの総称である。
- ③ 業務処理を通常行うコンピュータシステムでオンライン処理を行っている間、OSも業務システムも起動させて何の処理も行わずに待っている形態。通常使用しているシステムに障害が発生した場合は、待機システムに切り替えてオンライン処理を続行する。
- ④ 独立して動作する複数のコンピュータを相互に接続し、全体として信頼性の高いコンピュータシステムを構築する形態。コンピュータの一部が障害を起こしても他のコンピュータに処理を肩代わりさせ、システム全体の停止を防止する。

【解答群】

- | | |
|-----------------|--------------|
| ア ①：デュアルシステム | ②：ロードシェアシステム |
| ③：ウォームスタンバイ | ④：クラスタリング |
| イ ①：デュプレックスシステム | ②：デュアルシステム |
| ③：ホットスタンバイ | ④：タンデムシステム |
| ウ ①：デュアルシステム | ②：ロードシェアシステム |
| ③：ホットスタンバイ | ④：クラスタリング |
| エ ①：デュプレックスシステム | ②：クラスタリング |
| ③：コールドスタンバイ | ④：デュアルシステム |



本試験：第7問

第7問

中小企業においても、複数のコンピュータを用いてシステムを構築することが少なくない。

そのような場合のシステム構成に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア クライアントサーバシステムのクライアントで、データの処理や保管などの多くの機能を担うように構成したシステムをシンクライアントシステムという。
- イ システムを2系統用意し、常に同じ処理を行わせ、その結果を相互に照合・比較することで高い信頼性を実現できるようにしたシステムをミラーリングシステムという。
- ウ ネットワーク上で対等な関係にあるコンピュータを相互に直接接続し、データを送受信するように構成したシステムをグリッドコンピューティングシステムという。
- エ 複数のコンピュータを相互に接続し、あたかも1台の高性能なコンピュータのごとく利用できるように構成したシステムをクラスタリングシステムという。

大原：直前対策模擬試験－第23問

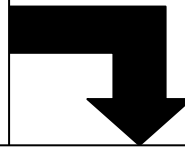
第23問

業務で利用されるIT関連サービスに関する記述①～④と、サービスの名称の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。解答は問23にマークせよ。

- ① 自社のサーバや通信機器を専門業者の施設内に預けて使用する。
- ② 専門業者の通信設備やサーバの一部を利用者が利用できる。
- ③ ソフトウェアの必要な機能だけを、必要時に利用者がネットワーク経由で利用できる。
- ④ OSやシステムの開発環境を、必要時に利用者がネットワーク経由で利用できる。

【解答群】

- | | | | |
|------------|----------|----------|--------|
| ア ①：SaaS | ②：ホスティング | ③：ハウジング | ④：PaaS |
| イ ①：ハウジング | ②：ホスティング | ③：SaaS | ④：PaaS |
| ウ ①：ハウジング | ②：SaaS | ③：ホスティング | ④：IaaS |
| エ ①：ホスティング | ②：ハウジング | ③：IaaS | ④：SaaS |



本試験：第22問

第22問

情報通信ネットワークを介して、外部の事業者が提供するさまざまな種類のサービスを、中小企業も利用できるようになってきている。

そのようなサービスに関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 所有する高速回線や耐震設備などが整った施設を提供することで、顧客が用意するサーバなどの設置を可能にするサービスをハウジングサービスという。
- b 所有するサーバの一部を顧客に貸し出し、顧客が自社のサーバとして利用するサービスをホスティングサービスという。
- c 電子メール、グループウェア、顧客管理システム、財務会計システムなどの機能をネットワーク経由で提供するサービスを、ソーシャルネットワークサービスという。
- d 業務用のアプリケーションの機能をネットワーク経由で複数に提供するサービスをISPサービスという。

【解答群】

- ア aとb
- イ aとd
- ウ bとc
- エ cとd